





## (第三面)

防火設備に係る不具合の状況

不具合がない場合、  
この様式は報告書に添付不要です。

不具合を把握した年月	不具合の概要	考えられる原因	改善(予定)年月	改善措置の概要等
今回の検査の指摘事項や既存不適格の内容を記入するところではありません。				
前回検査時以降に把握した防火設備に係る不具合等のうち第二面 6 欄（防火設備の検査の状況）において指摘されるもの以外のものについて、記入してください。				
第二面の 7 欄（防火設備の不具合の発生状況）で、「有」にチェックがあった場合のみ、その内容について記入してください。				

No.4～No.7の検査結果表は、報告対象防火設備のみ添付してください。  
該当しない防火設備の結果表は、省略して構いません。

当該検査に開与した検査者	氏名		検査者番号
	代表となる検査者	○○ ○○	
	その他の検査者	○○ ○○	

番号	検査項目	検査事項	検査結果		担当検査者番号
			指摘なし	要是正	
(1)	防火扉	設置場所の周囲状況	閉鎖の障害となる物品の放置	○	A1
(2)		扉、枠及び金物	扉の取付けの状況	○	A1
(3)			扉、枠及び金物の劣化及び損傷の状況	○	A1
(4)		危害防止装置	作動の状況	○	A1
(5)	連動機構	煙感知器、熱煙複合式感知器及び熱感知器	設置位置	○	A2
(6)			感知の状況	○	A2
(7)		温度ヒューズ装置	設置の状況	—	
(8)			スイッチ類及び表示灯の状況	○	A2
(9)			結線接続の状況	○	A2
(10)		連動制御器	接地の状況	○	A2
(11)			予備電源への切り替えの状況	○	A2
(12)			劣化及び損傷の状況	○	A2
(13)		連動機構用予備電源	容量の状況	○	A2
(14)		自動閉鎖装置	設置の状況	○	A2
(15)			再ロック防止機構の作動の状況	○	A2
(16)	総合的な作動の状況	防火扉の閉鎖の状況	○		A1・A2
(17)		防火区画の形成の状況	○		A1・A2
上記以外の検査項目			堅穴区画がある場合が対象となります。1区画以上について感知器を作動させ複数の防火扉の作動の状況、区画の形成の状況を確認してください。なお、単体で区画が形成する場合は(17)の検査は不要		

## 特記事項

番号	検査項目	指摘の具体的な内容等	改善策の具体的な内容等	改善(予定)年月
(1)	設置場所の周囲状況	物品が放置されている	撤去	ROOO.
(4)	危害防止装置:作動の状況	運動エネルギーが10Jを超過	ドアチェックを調整する	ROOO.
※異種用途区画に温度ヒューズ式が設置されている場合: (5)(6)(8)～(16)の「要是正」と「既存不適格」に○を記入してください。				
※堅穴区画に温度ヒューズ式が設置されている場合: (5)(6)(8)～(17)の「要是正」と「既存不適格」に○を記入してください。				

当該検査に関与した検査者	氏名			検査者番号
	代表となる検査者	○○ ○○	A1	
	その他の検査者	○○ ○○	A2	

番号	検査項目	検査事項	検査結果		担当検査者番号	
			指摘なし	要是正		
(1)	防火シャッター	設置場所の周囲状況	閉鎖の障害となる物品の放置の状況	○	A1	
(2)		駆動装置	軸受け部のブレーケット、巻取りシャフト及び開閉機の取付けの状況※	—		
(3)			スプロケットの設置の状況※	—		
(4)			軸受け部のブレーケット、ペアリング及びスプロケット又はロープ車の劣化及び損傷の状況※	—		
(5)			ローラーチェーン又はワイヤロープの劣化及び損傷の状況	○	A1	
(6)		カーテン部	スラット及び座板の劣化等の状況	○	A1	
(7)			吊り元の劣化及び損傷並びに固定の状況	○	A1	
(8)		ケース	劣化及び損傷の状況	○	A1	
(9)		まぐさ及びガイドレール	劣化及び損傷の状況	○	A1	
(10)		危害防止装置	危害防止用連動中継器の配線の状況	○	A1	
(11)			危害防止装置用予備電源の劣化及び損傷の状況	○	A1	
(12)			危害防止装置用予備電源の容量の状況	○	A1	
(13)			座板感知部の劣化及び損傷並びに作動の状況	○	A1	
(14)		作動の状況	平成17年11月30日以前の 防火設備で、危害防止装置が未設置の場合、「要是正」と「既存不適格」 に○を記入してください。			
(15)	連動機構	煙感知器、熱煙複合式感知器及び熱感知器	設置位置	○	A2	
(16)			感知の状況	○	A2	
(17)		温度ヒューズ装置	設置の状況	—		
(18)		連動制御器	スイッチ類及び表示灯の状況	○	A2	
(19)			防火区画の形成の状況	○	A2	
(20)			接地の状況	○	A2	
(21)			予備電源への切り替えの状況	○	A2	
(22)		連動機構用予備電源	劣化及び損傷の状況	○	A2	
(23)			防火区画の形成の状況	○	A2	
(24)		自動閉鎖装置	設置の状況	○	A2	
(25)		手動閉鎖装置	設置の状況	○	A2	
(26)	総合的な作動の状況	防火シャッターの閉鎖の状況	○		A1・A2	
(27)		防火区画の形成の状況	○		A1・A2	
上記以外の検査項目			堅穴区画がある場合が対象となります。1区画以上について感知器を作動させ複数のシャッターの作動の状況、区画の形成の状況を確認してください。なお、単体で区画が形成する場合は(27)の検査は不要です。			
特記事項						
番号	検査項目	指摘の具体的な内容等	改善策の具体的な内容等	改善(予定)年月		
(10)～(14)	危害防止装置	危害防止装置未設置	危害防止装置の取付	未定		
※異種用途区画に温度ヒューズ式が設置されている場合： (10)～(16)、(18)～(24)、(26)の「要是正」と「既存不適格」に○を記入してください。						
※堅穴区画に温度ヒューズ式が設置されている場合： (10)～(16)、(18)～(24)、(26)、(27)の「要是正」と「既存不適格」に○を記入してください。						
※面積区画に温度ヒューズ式が設置されている場合： (10)～(14)の「要是正」と「既存不適格」に○を記入してください。						

検査結果表  
(耐火クロススクリーン)

No. 6

当該検査に関与した検査者	氏名			検査者番号
	代表となる検査者	○○ ○○	A1	
	その他の検査者	○○ ○○	A2	

番号	検査項目	検査事項	検査結果		担当検査者番号
			指摘なし	要是正既存不適格	
(1)	耐火クロススクリーン	設置場所の周囲状況	閉鎖の障害となる物品の放置の状況	○	A1
(2)		駆動装置	ローラチェーンの劣化及び損傷の状況	○	A1
(3)		カーテン部	耐火クロス及び座板の劣化及び損傷の状況	○	A1
(4)			吊り元の劣化及び損傷並びに固定の状況	○	A1
(5)		ケース	劣化及び損傷の状況	○	A1
(6)		まぐさ及びガイドレール	劣化及び損傷の状況	○	A1
(7)		危害防止装置	危害防止用連動中継器の配線	-	
(8)			危害防止装置用予備電源の劣化	-	
(9)			危害防止装置用予備電源の容	-	
(10)			座板感知部の劣化及び損傷並	-	
(11)			作動の状況	○	A1
(12)	連動機構	煙感知器、熱煙複合式感知器及び熱感知器	設置位置	○	A2
(13)		感知の状況	○	A2	
(14)		連動制御器	スイッチ類及び表示灯の状況	○	A2
(15)			結線接続の状況	○	A2
(16)			接地の状況	○	A2
(17)		連動機構用予備電源	予備電源への切り替えの状況	○	A2
(18)			劣化及び損傷の状況	○	A2
(19)			防火区画の形成の状況	○	A2
(20)		自動閉鎖装置	設置の状況	○	A2
(21)		手動閉鎖装置	設置の状況	○	A2
(22)		総合的な作動の状況	耐火クロススクリーンの閉鎖の状況	○	A1・A2
(23)			防火区画の形成の状況	○	A1・A2
上記以外の検査項目			堅穴区画がある場合が対象となります。1区画以上について感知器を作動させ複数の耐火クロススクリーンの作動の状況、区画の形成の状況を確認してください。なお、単体で区画が形成する場合は(23)の検査は不要です。		

## 特記事項

番号	検査項目	指摘の具体的な内容等	改善策の具体的な内容等	改善(予定)年月

No.7の記入例は省略しています

## 検査結果図

防火設備検査結果図（平面図）には、防火区画に設けられた防火設備を対象としています。  
防火区画が判別できるよう朱書き（赤線）で明示願います。  
※随時閉鎖防火設備のうち外壁開口部の防火設備、常時閉鎖防火設備は検査対象外です。

運動制御器（受信盤・総合防災盤）は運動機構検査項目に該当しますので位置を明示ください。

(10) 防火シャッターに危害防止装置が設けられていない。（写真○）

(14) 防火扉の運動エネルギーが10Jを超えている。（写真○）

運動区域1

2階平面図

3階平面図

屋上階平面図

運動制御器（受信盤・総合防災盤）は運動機構検査項目に該当しますので位置を明示ください。  
防火設備を以下のような記号等で表記してください。  
防火設備の種類、随時閉鎖方式が判るよう記入してください。

凡例

記号	種別
SD	防火扉
SS	防火シャッター
CS	耐火クロススクリーン
	運動制御盤
(S)	煙感知器
	堅穴区画総合連動作動実施部

防火設備が多い場合は、階別、防火設備の種類別に、防火設備の数量一覧表を表記してください。  
扉の枚数は扉の枠単位で1枚とします。（神戸市を除く。）

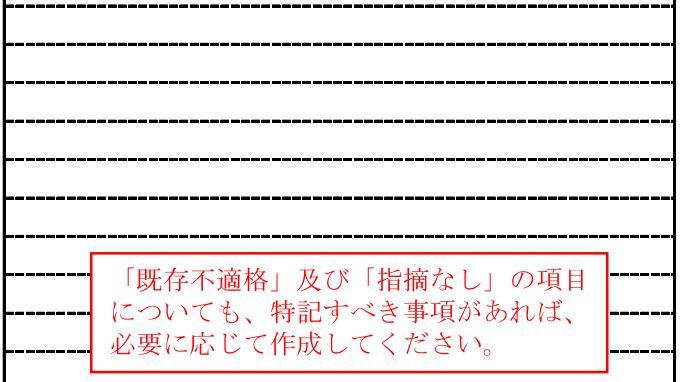
防火設備一覧表

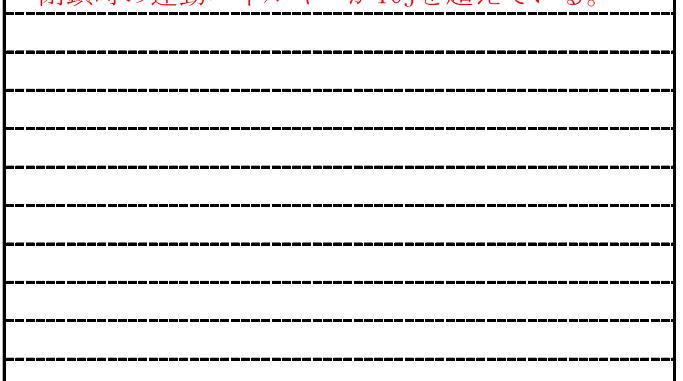
防火設備の種類	枚数					
	地下1階	1階	2階	3階	4階	計
防火扉		1	1	1		3
煙感知器連動式		1	1	1		3
耐火スクリーン		2	2	2		6
温度ヒューズ式	防火扉					

注)各階平面図を添付し、検査の対象となる防火設備の設置されている箇所及び指摘(特記すべき事項を含む)のあった箇所を明記すること。

## 関係写真

併せて、指摘のあった箇所や写真撮影位置を別添1様式(No.8)の配置図及び各階平面図に明記してください。

部位	番号	検査項目	検査結果
	別記第一号 (1)	防火扉：設置場所の周囲状況	<input checked="" type="checkbox"/> 要是正 <input type="checkbox"/> その他
		特記事項	
		・物品が放置されている。	
<b>写 照貼付 真</b> 			
			「既存不適格」及び「指摘なし」の項目についても、特記すべき事項があれば、必要に応じて作成してください。
<b>写 真1</b> 			

部位	番号	検査項目	検査結果
	別記第一号 (4)	防火扉：危害防止装置 作動の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 要是正 <input type="checkbox"/> その他
		特記事項	
		・閉鎖時の運動エネルギーが10Jを超えている。	
<b>写 照貼付 真</b> 			
<b>写 真2</b> 			

(注意)

- ① この書類は、検査の結果「要是正」かつ「既存不適格ではない」項目について作成してください。また、「既存不適格」及び「指摘なし」の項目についても、特記すべき事項があれば、必要に応じて作成してください。「要是正」の項目がない場合は、この書類は省略しても構いません。
- ② 記入欄が不足する場合は、枠を拡大、行を追加して記入するか、別紙に必要な事項を記入して添えてください。
- ③ 「部位」欄の「番号」、「検査項目」は、それぞれ別記様式の番号、検査項目に対応したものをお記入してください。
- ④ 「検査結果」欄は、検査の結果、要是正の指摘があった場合は「要是正」のチェックボックスに「レ」マークを入れ、それ以外の場合で特記すべき事項がある場合は「その他」のチェックボックスに「レ」マークを入れてください。
- ⑤ 写真は、当該部位の外観の状況が確認できるように撮影したものを添付してください。